

目的 沖縄本島や八重山地方にミンサーと呼ばれる細帯がある。これは沖縄本島の伊波では「メンサー」、竹富島では「ミンサー」と言い、呼称が異なるだけでなく模様構成も異なる。この両者の共通点、相違点を比較して考察することを目的としている。

方法 1989年9月から1991年1月の間に、伊波メンサーと竹富島のミンサーについて伊波と竹富島で明治生まれ6人に聞き取り調査を行い、実物調査も行った。また、石川市歴史民俗資料館、宮良殿内、南島民俗資料館、善宝院での展示品を見て参考にした。

結果 共通点：①細帯である。②緯糸にための糸を使用し畦を出す。③経糸一つの羽に上下異なる色糸を用いて平織でよこ縞の模様を出す技法を用いる。それを伊波ではケリインクー、竹富島ではムツシアヤーと言う。④素材は木綿(現在伊波は木綿と毛糸の交織)。相違点：①模様構成が異なる。伊波メンサーはケリインクーを多く使い、全体をケリインクーで構成したものや、竹串を使い紋織で幾何学模様を出したものがある。それに対して竹富島のミンサーは両端にムツシアヤーを使い、ムカデの足模様をあし、中に細いたて縞と絳模様を入れた構成になっており、紋織の技法は見られない。②伊波メンサーは原始機で織り、竹富島のミンサーは高機(明治時代は地機)を用いる。

以上のことから、畦を出す、ケリインクーとムツシアヤーの方法でやるのが両者共通した技法で、この技法が全体の模様を構成する上で非常に大きな特徴となっていることが分かった。また、紋織と絳の違いは、伊波に花織があり、竹富島で上布が織られていたという地域の織物がそれぞれに影響を与えたのではないかと思われる。